野田はまなす会会報
No.53 平成28年9月

はまなす通信

発行：野田はまなす会 / 編集：野田はまなす会事務局（野田村役場総務課）☎0194・78・2111

懐メロで楽しむ ふるさと交流会

平成28年6月19日の午後1時より、東京虎の門、霞が関ビル35階の東海大学校友会館・望星の間にて「野田はまなす会総会及びふるさと交流会」が開催されました。

村からは小田祐士村長、貳又正人議長、村議会議員の皆さまに参加いただきました。また、友好団体から東京様似会、久慈ふるさと会、ふるさと普代会、久慈高校同窓会、久慈地区高校東京同窓会の会長や幹事長ら幹部に参加いただき、総勢83名で賑やかな雰囲気で開会しました。

中村剛総務課長の司会のもと、小谷地守副会長の開会のことばに続き、桜庭会長の挨拶があり、ふるさと野田村へのふるさと納税を周囲へ広めて欲しいと呼びかけました。

その後討議に入り、平成27年度の事業報告と収支決算・平成28年度の事業計画案、収支予算案が原案通り承認。役員改選では新しく4名の幹事が増え、会場の皆さんから拍手により提案通り承認されました。今後も会員の皆さんとともに野田はまなす会の活動がさらに活気づくことを期待されます。

来賓祝辞では、小田村長から、村の近況報告としてバイオマス発電の本格稼働が8月を予定していることや、ワイナリーが秋頃に製造開始する趣旨のお話がありました。

暫しの休憩を挟んだ後、ゲストのハイクラソーナバンドが奏でるオープニングミュージックをBGMに「ふるさと交流会」が、同会場で華々しく開会されました。

貳又正人議長からもご祝辞をいただきました

和やかさとほどよい緊張感が漂う心地よい雰囲気の中で、第二代はまなす会会長の種綿勇顧問のご発声により乾杯に移りました。友好町村である様似町の東京様似会　橋爪年幸会長のご来賓挨拶をいただき、楽しい懇談に入りました。今回は総会から参加者の席をあらかじめ決めた形で、来賓・村議会議員らには8テーブルに分かれて座って頂き、会員と親しく交流、懇談が持てるよう工夫しました。戸惑った方も中にはいたかもしれませんが、概ね交流会にふさわしい場になったと感じました。

笑顔も話題も尽きない、ひとときを

ゲストにお招きしたハイクラソーナには、誰もが知っている「懐かしのメロディー演奏」をお願いしました。

「ああ上野駅」、「川の流れのように」、「青い山脈」、「寒い朝」などの選曲は、懐かしい友との語らいを楽しむ場から、徐々に会場全体を一体感に包んでいきました。

ハイクラソーナバンドのみなさん

楽しい福引きの後は、全員で会場いっぱいに一つの輪になって、生演奏のもと「花は咲く」、「ふるさと」、「野田中学校校歌」を合唱して静かに、感銘深く、余韻を残してお開きとなりました。

（志村良子副幹事長）

ふるさとを懐かしみながら、しっとりと歌い上げます

野田はまなす会 会長 桜庭昌吾

今年は初秋から強力な台風が日本全土を襲いました。みなさんのところは、いかがだったでしょうか。

去る、6月19日に開催した平成28年度野田はまなす会総会・交流会に多数のご出席を賜り、ありがとうございました。おかげ様で参加者83人の大盛会となりました。

ふるさと野田村からは小田祐士村長、貳又正人村議会議長をはじめ、村議会議員11名のご臨席を賜りました。遠路お出でいただき、会を盛り立てていただき、心から感謝申しあげる次第です。議員の皆様には、会の活動の一端をご覧いただくとともに、生まれ育った野田村を離れてはいますが、ふるさと野田村の発展に何か寄与したいという私たち会員の想いを感じ取っていただけたかと思います。

私は今年も7月13日から21日まで帰省し、村の復興の様子を見てきました。

大きな被害を受けた中心街の本町・旭町の道路が整然と整備復旧されつつありました。今ある商店は徳屋さんぐらいで、震災前の商店街になるのは、まだまだ時間がかかるようです。

大鳥居前から国道45号線に通じる道路

大鳥居から前浜に向かって歩いて行くと、新しく土盛りして築いた3番目の防潮堤に着きます。ここから国道45号線の間の19haが「十府ヶ浦公園」です。ここに「桜の木」が会員の皆さんからの募金63万7千円で植樹される計画です。皆さんにも帰省の折は、是非見て欲しいです。(海側に14mの海岸防潮堤があり、2番目の防潮堤が国道45号線の道路です)

整備が進む十府ヶ浦公園

さて、岩手日報の報道によると「三陸鉄道北リアス線の野田村、米田に新駅が新設される。8月3日に工事安全祈願祭が行われ、来年2月末に完成、来春の利用開始を目指す」とのこと。

工事の無事を願って鍬入れをする八重樫一洋県北広域振興局長(左)と小田祐士村長

新駅は陸中野田駅と野田玉川間のほぼ中間で、十府ヶ浦トンネルの南側に新設されるそうです。新駅名は仮称「米田」ですが「十府ヶ浦」のほうがいいなと思いますがどうでしょうか。

新駅の増設、広大な都市公園「十府ヶ浦公園」の新設が観光客の増大に繋がることを大いに期待したいです。周辺住民の安全確保と憩いの場であると同時に、観光客が足を運び、野田の物産を購入して野田が潤って欲しいです。漁業、農業、林業、商業の関係者が連携して、知恵を出し合って集客に努め、繁栄につながるよう願っています。

10月9日の日帰りレクリエーションは「野田の特産品をたらふく食べよう」をテーマに、野田から荒海ホタテ、魚、南部福来豚、野菜などを取り寄せてバーベキューを計画しています。役員一同、皆さんのご参加をお待ちしています。

本年もどうぞよろしくお願いします。

ふるさと野田村の 特産品をたらふく食べる会

野田の食材を中心に、バーベキューを楽しみます。(南部福来豚・荒海ホタテ・のだ塩焼きそばなどを予定)

■期　　日　平成28年10月9日(日)
■会　　場
千葉県松戸市「21世紀の森と広場」
(木もれ陽の森のバーベキュー場)
■集合場所
ＪＲ武蔵野線「新八柱駅」南口出口
■集合時刻　午前10時
■費　　用(当日参加者より集金)
男性 3,000円・女性 2,500円
■申し込み期限　9月30日(金)
■申し込み

副会長	山根　正信	070・2152・1682
幹事長	久慈　士郎	090・5567・5795
担当幹事	小野　正美	090・5781・3460
	大澤　勝司	090・4818・9486

岩手県人連合会

■日赤献血ボランティア活動

平成28年5月22日に、「日赤献血ボランティア活動」が東京都の池袋駅東口広場で行われました。

今回もはまなす会からは、桜庭昌吾会長、志村良子副幹事長、諫山とも子埼玉幹事の3人が参加。野田はまなす会としては、今後も協力していきたいと思います。

右から、献血に参加した桜庭会長、志村副幹事長、諫山幹事

■第41回岩手県人の集い

平成28年度第42回岩手県人の集いが6月7日に日暮里のホテルラングウッドで開催され、岩手県の各市町村のふるさと会や高校の同窓会、企業の東京支店などからおよそ90団体、356人が集いました。

野田はまなす会からは、桜庭、坂本、久慈、戎谷、諫山、加藤、明内の7人が参加。来年は野田はまなす会からも多数参加していただき、近隣のふるさと会と

後段右から、久慈幹事長、戎谷幹事、坂本副会長、明内監事
手前右から加藤幹事、桜庭会長、諫山幹事

第二回役員会

第二回役員会が8月7日に、虎の門の「霞が関ビル東海大学校友会館」で開催され、幹事・役員ら12人が出席しました。

■報告事項

①6月7日の「岩手県人のつどい」について

②日赤献血ボランティア活動について

③いわて国体応援ツアーに桜庭会長が参加

④リオ五輪に柔道で野田村出身者の中野亨道選手がフィリピン代表として出場

■協議事項

①総会、交流会の反省として、「83人の参加と盛会であったが、参加申込み者が漏れていた」、「会費の釣り銭が不足して混乱した」、「バンド演奏が会を盛り上げてくれた」、「村長・村議会議員の出席に感謝」が挙げられた

②はまなす通信の発行について

③日帰りレクリエーションについて

④会創立30周年記念事業実行委員会は、第3回役員会で発足

⑤平成29年度総会・交流会は平成29年6月18日の午後1時から、会場は今年と同じ霞ヶ関・東海大学校友会館で開催予定

これらの議題は、いずれも討議の上、承認されました。

■28年度役員一覧

職名		氏名(出身地区)
顧問		種綿　勇(横合)
会長		桜庭　昌吾(新山)
副会長		米田　忠男(米田)
		坂本　悟(新山)
		山根　正信(横町)
幹事長		久慈　士郎(前田小路)
副幹事長		志村　良子(北区)
地区幹事	東京	加藤　和子(根井)
		戎谷　牧子(明内)
		北田　誠治(愛宕町)
		下向　薫(横合)
	神奈川	大沢　直人(前田小路)
		欠端　博雄(泉沢)
	千葉	小野　正美(泉沢)
		大澤　勝司(旭町)
	埼玉	大澤　清子(新山)
		諫山とも子(愛宕町)
監事		安藤　君夫(新山)
		小谷地　守(新山)

任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

■新役員紹介

欠端　博雄（かけはた　ひろお）
（泉沢出身）
昭27年9月8日生まれ
昭42年　野田中学校卒

左官から外構の仕事をしています。
仕事はなんとか70才くらいまでできれば良いと思い、何があろうと自分自身が強くなるしかないと思い頑張っています。
人の夢に付き合うのも自分の夢だと思います。

大澤　勝司（かつし）
（旭町出身）
昭24年8月28日生まれ
昭40年　野田中学校卒

桜庭会長から電話がかかってきて、「千葉県の幹事の欠員ができたので、大澤くんやらないか」という事でしたのでお引き受けした。はまなす会、野田村などに少しでも貢献できればいいなと思います。
今後ともよろしくお願いします。

下向　薫（かおる）
（横合出身）
昭30年4月9日生まれ
昭46年　野田中学校卒

早いもので野田中学を卒業して45年、東京に出てきてから42年が経ちました。結婚してから36年、子供2人と孫1人に恵まれ、月日が経つのは早いものだと実感しているところです。今年の3月に長年勤めた会社を定年退職し、現在再雇用出向として関連会社で働いております。
今回新役員となり、あまりお役に立てないとは思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

北田　誠治（せいじ）
（愛宕町出身）
昭23年11月29日生まれ
昭39年　野田中学校卒

東京へ出て来て50年。田舎の家には電話も無く、手紙での連絡でした。今は交通通信発達で、いつでも行ける、いつでも話せる。これが田舎へ帰る機会を少なくしたと反省しています。
私は今、鹿島市の海の近くで一人暮らしをしています。最近は年のせいか、はまなす会のみなさんに会うのが楽しみです。

愛宕神社例大祭　野田まつり開催！

8月27日から28日にわたって、愛宕参道広場・役場前広場を主会場に野田まつりが行われ、上・中・下、計3組の山車が会場を練り歩きました。

風流　鵜越畠山重忠

風流　真田大助

牛若丸と弁慶　五条橋の巻

新山の宇部川河口の大規模防潮堤の建設進む

東日本大震災大津波で破壊された新山河口の防潮堤が高さを14mにして、今急ピッチで建設が進められています。

この新山の宇部川の河口は、昭和30年代頃は30mから50mの幅で広い砂浜で、宇部川の豊かな水は砂をかき分けて海に流れていました。日々河口は、波の力によって変わっていました。

その後、防潮堤が築かれて、砂浜に変化が起こり、砂の量が極端に減ってきました。この河口にはそんな歴史の変遷がありました。

今、東日本大震災大津波を経て、野田村民を津波被害から守るため、また野田港の河口が大変貌を遂げようとしています。

昔の浜と今の建設状況とを見比べてみて下さい。

防潮堤が無かった頃の宇部川河口

現在建設中の防潮堤

絵でつづる ふるさと野田村の風景（その10・最終回）

「愛宕神社・愛宕山」～愛宕町～

（文と絵）桜　庭　　昌（中新山出身・野田中昭和33年卒）

野田村中心部の愛宕山に鎮座する愛宕神社のことを村民は「あたごさん」と親しみを込めて呼んでいます。私が初めて愛宕山の境内に行ったのは、小学校5年生の頃で、かつて、野田村に大きな被害をもたらした明治29年と昭和8年の三陸大津波を想定した避難訓練の時でした。82段の階段を上がり、境内から城内を一望した時の感動は今も忘れられません。

愛宕神社と言えば、8月末の3日間は、村を挙げてのお祭りです。お祭りの会場となる城内の中心通りには、たくさんの屋台店が所狭しと立ち並び、近郷近在から老若男女大勢の人達が集まり、それはそれは賑やかでした。山車は上組、中組、下組から3台出て街中を練り歩き、見事なものでした。昭和20年代は、今のような楽しみは少なく、年一回のこのお祭りは子ども達にとっても待ち遠しいものでした。

この村祭は、愛宕神社の例祭を「野田まつり」として現在も行なわれています。昔の例祭日は旧暦の7月24日でしたが、昭和28年から新暦の8月24・25・26日の3日間となりました。現在は8月24日前後の週末に開催しているようです。

愛宕神社の縁起は、明治31年の野田村大火により海蔵院と共に焼失し、一切の記録が失われ、詳細はわかっていません。おそらく室町時代頃からだろうと推定されています。愛宕神社は、もともとは野田領主の菩提寺海蔵院の守護神として愛宕山に祀られ、野田村の氏神様となり繁栄しました。明治6年には野田村村社となりました。明治の大火の後、大正13年に再建されて現在に至っています。

平成13年には、村民有志のご尽力により、本町通り前に大鳥居が完成し、村のシンボルとなっています。

あとがき

▼八戸から仙台までをつなぐ三陸沿岸道路の建設が進んでいます。野田でも久慈工業高校の辺りで自動車専用道（速度80㌔㍍制限）の形を見てとることができ、明内地区にはインターチェンジが設置されるそうです。八戸・宮古間が2時間、宮古・仙台間は3時間。しかも、料金は無料。東京から野田への帰省の際に、役立つかもしれません。早く開通してほしいですが、まだ5年ぐらいかかるかも…。

▼明内に建設されていたバイオマス発電所がいよいよ稼働。一般家庭のおよそ2万7千世帯分の発電規模の電力を供給するそうです。

▼リオデジャネイロ五輪に、野田村出身の中野亨道選手（23歳）が柔道男子81㌔㍍級にフィリピン代表で出場するという快挙を果たしました。村出身者のオリンピック出場は初めてであり、中野選手は村の誇りです。

▼「絵でつづるふるさと野田村の風景」の文と絵を、平成24年から10回にわたり連載してきましたが、5年を区切りに、終了させていただきます。作者の桜庭昌さん（中新山）の長期間のご協力に心から感謝申し上げます。（S・S）